

挨拶

広島大学経済学部教授

前地域経済研究センター長 松水 征夫



私自身もこのセンターの活動に関わってきた者の一人として、今回10周年の記念フォーラムを迎えることができましたことを大変喜んでます。通常は10周年記念の行事ということになると、次の10年のステップをとということで、引き続きご支援をとということになるわけですが、この地域経済研究センターは10年時限のセンターとして設立されたので、今年は10年の活動を締めくくるといふ、いわば総括の大会ということになります。それでご案内のようなテーマになったわけです。今回は中国・四国地域の地域経済の専門家の先生方にお集まりいただき、この中国・四国地域のこれまでの10年間の変化を振り返っていただき、今後の中国・四国地域のあり方を論じていただいたことを大変感謝しています。貴重な提言を数多くいただきましたことを、関係者の一人として深くおん例申し上げたいと思います。

今回は最後の大会ということで、初代の樺本センター長をはじめとして、私は二代目、三代目の現在の戸田先生と三人のセンター長の経験者が登壇させていただいています。これまで地域の行政・経済界の方々にご支援いただいた関係で、ここまでセンターが来ましたことを改めてお礼申し上げたいと思います。10年間で11回の研究集会というのは少し合わないではないかと思いの方があるかと思いますが、平成7年度に松山と広島で2回開催している関係で、今年が10年目ですが11回目の研究集会になっています。センターが発足しました平成元年度に早くも第1回の研究集会を開催することができました。その時は、当時の経済企画庁の事務次官をしておられました星野進保さんに来ていただきました。現在はNIRAの理事長をしておられますが、その時を振り返ってみますと、よく10年間続いたものだというふうに考えております。センターは研究集会だけではなくてシンポジウム、セミナーあるいは研究会というふうに多様な活動を精力的に続けてきました。この10年間で各種行事に参加していただいた方は7千人を超えているというふうな数字をお聞きましています。これも一重に、ご参加いただきました皆様方あるいは先生方のお蔭と厚く感謝している次第です。今後も引き続きお願いをしたいというふうに思うわけです。

先ほど戸田センター長からお話がありましたし、今日も開会の挨拶で前川学部長がおっしゃいましたように、来年4月からは新たなセンターとして発足する予定です。これまでの成果を踏まえて、新たなセンターとして再出発するというところで、我々もできる限

り努力したいと考えています。10年時限のセンターというのは非常に厳しい面はありますが、新たな成果を踏まえて存続できるということで、スクラップアンドビルドで新たな試みをさせてくれるということでは非常にいい制度ではないかと思います。皆様方の期待に応えるべく、関係者一同頑張っていくと思いますので、引き続きご支援のほどをお願いいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。